

大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進事業 (大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアム)

■ 事業のセールスポイント：「データ利活用型エリアマネジメントモデル」

大丸有地区では**ビジョンオリエンテッド**によるスマートシティ化に取り組む。成熟社会における**「既存都市のアップデートとリ・デザイン」**を**「公民協調のPPP、エリアマネジメント」**によって推進する点が特徴である。都市OSやデータライブラリを実装した大丸有スマートシティでは、リアルタイムにデータを利活用した意思決定プロセスの変容が起こり、街の価値として**「創造性」「快適性」「効率性」**が飛躍的に高められる。

■ 対象地区の概要

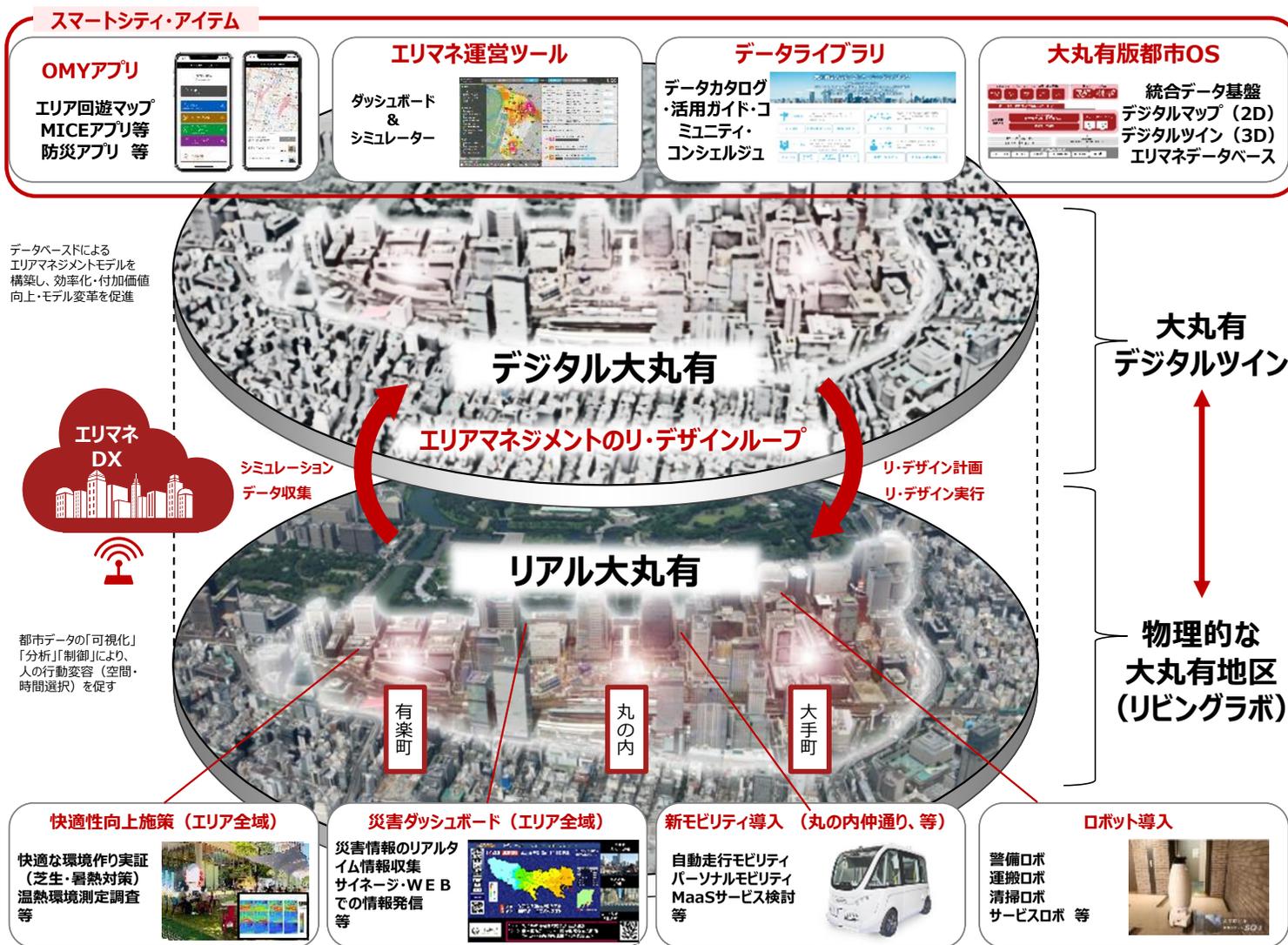
名称	大手町・丸の内・有楽町地区 (大丸有地区)
区域面積	約 120 ha
就業人口	約 35 万人

【位置図】
東京都千代田区の、東京駅と皇居に挟まれた大手町・丸の内・有楽町を合わせたエリア



【ビジョン】(大丸有ガイドラインより)
時代をリードする国際的なビジネスのまち
多様性にあふれた文化や価値を共創するまち
情報交流・発信のまち
風格と活力が調和するまち
便利で快適に歩けるまち
環境と共生する持続可能なまち
安全・安心なまち
新技術やデータを活用するスマートなまち
地域、行政、来街者が協力して育てるまち

■ 本事業全体の概要：エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション



■ 都市の課題と解決方法

■ 区域の発展的課題

当地区の日常・非日常における、ポテンシャルの向上・レジリエンスの増強という観点でスマートシティ化により解決すべき課題を「区域の発展的課題」として見出し取り組むことが重要であり、区域の発展的課題もスマートシティ化により進展、エリアマネジメントのDXにより継続的に更新する。

スマートシティアイテム スマートシティを支えるデジタルアイテム拡充	アプリシリーズ構築 	実証アプリコンセプト実現・WEBアプリ機能拡充
	エリマネ運営ツール 	公的空間モニタリング ロボットやモビリティの走行位置情報等を都市OS経由で連携し可視化 都市運営シミュレーション
	データライブラリ構築 統合データ基盤	データライブラリ統合データ基盤 都市OS
	ビジュアルコミュニケーション	エリマネ活動の可視化・シティプロモーション
	ベースメントプラン 都市がデジタルを活用していくための戦略・ルール・整備プラン	2Dデジタルマップ 3Dデジタルツイン デジタルマップ(2D) デジタルツイン(3D) エリマネデータベース 新モビリティやロボット等による快適性や回遊性向上
	エリマネコアバリュー エリアマネジメントの担い手自身のvalue up	エリマネの担い手 KPI・評価・PDCA データを活用したまちづくりの効果把握・評価 取組状況・評価の見える化 持続可能なまちづくり検討会
リ・デザインロードマップ 	リ・デザインロードマップ	

ポテンシャルの向上
 <課題カテゴリ1> 日常のポテンシャルの向上
 <課題カテゴリ2> 非日常のポテンシャルの向上
 <課題カテゴリ3> 日常のレジリエンスの増強
 <課題カテゴリ4> 非日常のレジリエンスの増強
 レジリエンスの増強
 継続的に更新
エリマネDX
 データ収集シミュレーション
 デジタル大丸有
 エリアマネジメントのリ・デザインループ
 リアル大丸有
 リ・デザイン計画実行

目標達成に向け推進する3領域

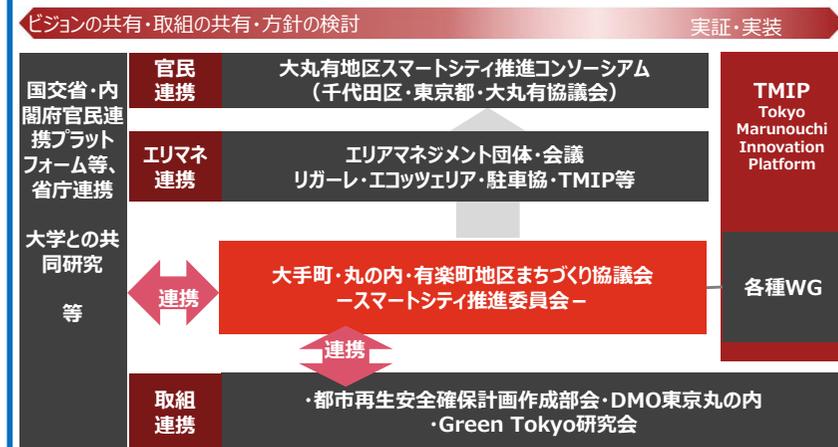
■ スマートシティの目標(KPIの設定)

「取組KPI」とし、取組成果の評価設定を「成果KPI」と評価設定

		取組KPI (抜粋)	
ポテンシャルの拡大	創造性	イノベーションを創造し国際競争力あるビジネスを推進する交流・出会いのある街	スマートシティ関連実証実験数 街一体型MICE (DMO取組) 開催の推進 エリアアプリの導入推進 等
	快適性	ウェルネスを高め誰もが自分らしく心豊かに安心・安全・便利に活動できる快適な街	クールスポットアプリの導入推進 本地区の環境把握活動の推進 バリアフリーに係る実証実験等の推進 災害ダッシュボード等の取組推進 等
	効率性	サーキュラーエコノミーを実現する環境と親和した街、ロボットや自動化を導入し効率的な街	ロボット導入件数 自動運転、ロボット等の実証実験等の推進 プラスチック廃棄削減プロジェクトの推進 等

■ 運営体制

大丸有スマートシティは、官民連携体制及び、エリマネ連携体制を構築し、個別分野についてはテーマに合わせた民間事業者等をメンバーとした各種分科会を組成し、ビジョン・取組の共有、方針の検討を行う。また、TMIPと連携し、エコシステム型で各種サービス実証・実装を目指す。



MICE主催者や観光地域づくり法人（DMO）と連携し、MICE会場から周辺エリアへ滲み出し・エリアを味わい尽くしてもらうための来街者向け情報発信の在り方検証を実施。エリアに散在するデータを収集、MICE来街者の属性・志向を考慮したコンテンツ選定等を行い、都市OS機能を活用し適切な情報を発信。

■ 実証実験の内容

【構築物】

エリアの魅力が伝わるMAP

既存のエリアデジタルマップをベースにデザインをデフォルム、MICE関連コンテンツを重畳



エリアコンテンツ発信用webサイト

MICE会場周辺で実施されているイベント等のエリアコンテンツを発信するためのwebサイトを構築



【検証】

当地区で開催されたMICEと連携し、MICE来街者に向けた周辺エリア情報の発信方法について上記構築物の有効性を検証。

- 検証①：第31回日本医学学会総会 2023東京・博覧会：2023/4/15～23
- 検証②：第77回日本臨床眼科学会：2023/10/6～9
- 検証③：サステナブル・ブランド国際会議 2024東京・丸の内：2024/2/21～22

検証①でのエリアコンテンツ発信用webサイトのログ分析結果からマップでの情報発信可能性を見出し、以降検証②・③では**マップを活用した情報発信を強化**。

⇒アンケートを通じて満足度・評価を調査



検証③ではMICEの公式HPにて会場周辺エリアMAPとして採用された他、公式配布物等も通じて情報を発信



■ 実証実験で得られた成果・知見

【個別検証の振り返り】

検証①	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアコンテンツ発信用webサイトのログ分析より、発信コンテンツとしてはマップへの関心が高い傾向を確認。 ・学会HPでも周辺エリア情報についての特集があったほか、他特集webサイトが存在。情報分散により発信効果が低迷。
検証②	<ul style="list-style-type: none"> ・検証①の分析結果からマップでの情報発信に注力。マップデザインの刷新とMICE主催者と連携した掲載コンテンツ収集を実施。 ・主催側との連携した情報発信チャンネルが限定的となり、閲覧数が低迷。 ・アンケートからマップへの満足度を一定程度確認するもサンプル数が限定的であるため、検証③での再調査を計画。
検証③	<ul style="list-style-type: none"> ・主催側との連携強化により、情報発信チャンネルを拡大（公式HP内のマップとして採用・会場配布物や広報誌にも掲載）し、閲覧数を増加 ・アンケートでも十分な回答数を確保し、KPI：満足度85%を達成

【成果】

- ・デジタルマップへの利用者満足度 **《85%》**（KPI：50%以上を達成）
- ・マップの印象としても「**楽しく見ることができる**」という回答が多く、当初のコンセプトを達成



【知見】

〈マップでの情報発信の有効性〉

- ・非日常的に会場周辺エリアに来街するMICE参加者宛には、周辺エリアの地理的情報も含む、マップを通じた情報発信が有効である
 - ・webサイト形式に情報を取りまとめる場合、情報が階層化してしまい、下層の情報まで利用者がたどり着けない可能性もある
- 〈情報発信・連携の体制構築〉
- ・MICE主催者とエリアマネジメント団体との連携により、MICE主催者が提供する公式チャンネルでの集約した情報発信が有効である

MICE向けの情報発信の仕組みとして、“マップをベースとした各種情報発信”をエリアのデジタルメニューとして用意しておく意義を確認。今後、更にDMOをはじめとした関連団体との連携を強化していくとともに、日常的なエリアの情報発信の仕組みに組み込んでいくことを検討。

■ 実証実験で得られた課題

〈MICE公式サービスとの連携〉

・現状は、会場周辺エリア情報の発信有効性を示す実績作りフェーズのため、会場周辺エリアのマネジメント組織として別主体での情報発信に留まっており、**MICE公式サービス（入場パスなど）とシームレスに連携したサービス**には到達できていない。

・**実績作りの過渡期**であるうえ、MICE主催者としてはイベントへの協賛者の情報発信を優先して行う必要があるため、エリマネ⇒MICE主催者への持ち込みで成立している**本情報発信の位置づけが明確になりにくい**。

〈連携案件数の限界〉

・エリア内で開催されるMICE案件におけるDMOの関与度は多様（関わりがないものも多数）であり、DMOとの連携を前提する**本情報発信ツールの活用頻度も案件数に連動**する状況である。

・視覚的表現要素が多いマップを活用した情報発信では、**MICE案件毎でのカラー・デザインに応じた表現方法の調整が多く発生**するため、対応するための開発工数と準備期間を確保する必要がある。

〈情報収集の仕組み化・範囲の拡大〉

・本情報発信ツールの構築は、都市OSを経由したデータ格納・配信を行っているが、MICE案件により収集すべき情報も可変であるため、収集対象のデータとの自動連携については未実装である。案件に左右されないデータ（周辺エリアの普遍的なデータ等）の整理を行い、**収集対象のデータとの自動連携の仕組み**がなされれば、より**効率的に情報収集・配信**につなげられる。

・エリアMICEの充実に向けて、まずは会場周辺（特に近接）エリアの情報を適切に発信する有効性を検証したが、MICE来街者（特に海外）の回遊範囲は広域となる可能性が高く、**来街者の満足度向上には隣接エリア情報も含めた発信が有効**となるのではないか。

■ 今後の取組：スケジュール

MICE来街者に対するデジタルマップを介したエリアコンテンツの発信については有効性を確認できたことから、情報発信の体制構築・仕組み化・重畳コンテンツの収集工数削減等の課題に対応しつつ、都市運営の高度化やMICEエリア来訪者の満足度向上の実現を目指し、取り組みを継続する。

【フロントサービス：マップの改善】

・エリアデジタルマップである「Oh MY Map!」の各種機能の統合やUI・UXの改善により、サービスの質を向上させ、来街者の満足度向上を目指す

【各種データ活用・連携】

・自エリアのデータ収集効率化だけでなく、他エリアデータとの連携や行政等が運用するデータプラットフォームとも連携し、収集情報量の増加を図り、フロントサービスの充実につなげる

